2024. 12vol.51

ACNC News Letter

発　　行
特定非営利活動法人
あいち・子どもＮＰＯセンター

〒460-0003 名古屋市中区錦３丁目２－３２錦アクシスビル２階
TEL&FAX:(052)253-6398
e-mail:aichi-kodomo@mountain.ocn.ne.jp
HP: http://aichi-kodomo.sakura.ne.jp

「平和の実現への願い」

日本モンテッソーリ協会（学会）
中部支部長　村田　尚子

日本モンテッソーリ協会（学会）は、日本におけるモンテッソーリ教育研究者間の連携協働により『子どもの人権』『子どもの尊厳』を大切にした、モンテッソーリ教育原理と実践を研究し、その普及を図ることを目的としています。

モンテッソーリ教育は、子どもを科学的に捉え観察し、環境を用意し、子どもが本来持っている力、自分で自立・発達していこうとする力を伸ばすことを信条としております。

そして、子どもの人権を尊重し、『子どもの育ちは一人一人違う』ことを念頭に置き、ゆったりとした時間の流れの中でゆとりをもって、子どもの成長を見守るようにしています。

昨年、2023年８月３日（木）～５日（土）に開催されました日本モンテソーリ協会（学会）全国大会を中部支部が担当し、720名程の方々に参加いただきました。

大会テーマ「子ども達に生きる希望を一人間の課題に立ち向かう人々の素晴らしさを可能性溢れる子ども達に引き継ごう」といたしました。

マリア・モンンテッソーリが辿り着いた教育論の根幹であるコスミック論は、自然との共生、生命の誕生の尊さを提唱し、人間同士が尊重し合う社会の構築の必要性を伝えています。

大会３日間を通じて「平和の実現」「多様性の尊重」「環境問題」「貧困問題」など様々な課題について科学的に学ぶ中で、世界の平和を願い改善に向けて尽力している存在を知り、子ども達に素晴らしいパワーを伝える事によって、子どもたち自身で考え、行動できる人間へと導いていく大人（教師）の役割について皆様と学びを深めていく学会となりました。

今日、私たちは、国境を越えた地球環境の汚染や環境破壊の深刻化の問題、さらには切実な平和の実現の問題などに直面しています。声にならない声で「私たちのこの世界に権利がある」と訴えている幼い子どもの未来世代の権利にたいして、モンテッソーリ教育が、どのように向き合っていけばよいのか、課題が山積みとなっているのが現状です。

地球上に存在するすべてのものは、一つの絆で結ばれているとする宇宙的視点の討議も必要となっています。

マリア・モンテッソーリは、1937年のコペンハーゲンでの講義において「教育は平和のための武器である」と述べています。それは、戦争の廃絶は平和の武器である教育に頼らない限りありえないと彼女の確信にもとづく表名となっています。

そして、マリア・モンテッソーリは、『政治的な話し合いによって生まれる「戦火のやんだ状態」は平和とみなされておらず、真の平和は人類の間に正義と愛が実現されて調和によって新しい世界が実現されて。そのような世界実現は教育によって生まれる人間の精神の健全さによる正常さと精神的健康に依拠している。世界に平和の基礎を据えるための堅実な方策は正しい教育を通してのみ実現が可能である』と伝えています。

モンテッソーリ教育においては、正しい教育とは「子ども」と「環境」が平和を考える上での重要なカテゴリーとされています。

世界の平和を考え、幸福を願う人間に育っていくには、乳幼児期の大人の関わり方（物的環境も含む）が重要です。子どもの内面から湧き出る要求や思いに対して、どの様に理解し環境を準備しているのか。子どもが環境とどう関わり自己教育につなげているのか。そして、子どもの内面への対応と必要な環境作りが子どもの安定した人格形成にどのような影響を与えているのかを、大人がしっかりと意識していく必要があります。

マリア・モンテッソーリが、世界の平和への願いを子ども達に託したように、様々な課題を抱える現代社会を私たち大人がどのように『平和の実現』に向けた思いで、未来の子ども達につないでいくべきかを考え、世界中の子ども達の意見や思いにしっかりと耳を傾けて聴いていく中で、大人が話し合い、協力し合い、助け合いながら秩序と調和が保たれた社会の構築に努めていく事が私達の大きな役割となってくるのではないかと感じています。

あいち・子どもNPOセンター学習会報告

こどもまんなか社会は実現可能か！？

日時：3月11日（月）13：30～15：00
講師：小木　美代子さん　（NPO法人日本子どもNPOセンター代表理事
元NPO法人あいち・子どもNPOセンター代表理事）

こども基本法の施行、こども家庭庁の発足と２０２３年４月から１年が経過しました。“こどもまんなか社会”は実現にむかっているのでしょうか？『子どもNPO白書2023』を刊行された日本子どもNPOセンター代表理事の小木美代子さんから、白書編さんの中でみえてきた「こども施策」の現状をお話しいただきました。

こども家庭庁は“こどもまんなか社会”を標榜しています。“こどもまんなか社会”を実現する上で以下のような懸念材料を感じています。

〇「子ども・子育て育成支援金」（制度）の創設をめぐっての財源問題。安定的なものか。
〇文部科学省と厚生労働省の連携はどこまでできるか。厚労省の力量が勝っているように見え、若者対策がかすんでみえる。
〇子どもの声を聴くという活動が鈍くなっており、子どもの声を救い上げるという筋道について語られていない。
〇自治体ごとの進捗状況がまちまち、市町村格差が生じていないだろうか。

特に、今年度４月から「こども家庭センター」が各市区町村に設置されました。このセンターが子ども・子育て世代にとって有意義なものになるよう、私たち支援者が積極的に働きかけていくことも大切ではないでしょうか。

【文責　岩根】

困難を抱える子どもたちへの支援

日時：6月9日（日）11：00～12：30
講師：高橋　直紹さん　【弁護士　あいち・子どもNPOセンター　監事】

高橋さんは、これまでに、「名大生事件」「弥富事件」「東大前事件」など、世間を騒がせた少年事件に携わってこられました。基本は名もない少年事件や子ども事件が中心。弁護士生活28年、その数200件にのぼるとのことです。これまで出会った子どもたちから感じてきたこと、特に、最近の子どもたちから感じておられることをお聞きすることができました。

・外への発散型から内に籠る型へ変わってきている
やんちゃな感じの子が少なくなっており、一見普通にみえる子が、内に籠りリストカットや薬物に手を出すケースが目立つ。外に発散している子は健全なのかもしれない。

・愛着問題・・・様々な場面で影響が出る　他者と自分との心地よい距離感が必要
親と一緒にご飯を食べることや、誕生日を祝ってもらうという、ごく普通の経験をしないで育っている。親との愛着関係が持てていない。べたべたとした関係を求めてくることが多く、少し寂しいかと思う位の他者との距離感が良いのだという感覚を知らせていくことが大切だと感じている。

・発達特性の理解の大切さ
頭の良い子は知性で処理するのだが、本人は悶々としたものを抱えていたりする。現代社会では、環境や情報の入り方が変化してきたことに一因があるのかもしれない。普通にコミュニケーションが取れるのだけれども、どこか一点が欠落していたりすることが多々ある。

・感情の未分化
嬉しいのか、悲しいのか、わからない。感情を言葉にできない様子が見受けられる。

◎高橋さんは、可能な限り「生きているか」メールやラインを送るそうです。たまにくる「生きているか」メールに自分のことを忘れないでいてくれる人がいることを感じる子どもたち。細く長く関わり続けることが大切なのでしょう。

【文責　岩根】

愛知県教育委員会委託事業 2024年度若者・外国人未来応援事業

名古屋地域の若者・外国人未来応援事業に関わって

常任理事　　船橋　理仁

名古屋地域の若者・外国人未来応援事業は今年で８年目となりました。

今年度も30名近くの方にご参加いただき、高卒認定試験や各自の目標に向けて学習を進めておられます。県全体での合同協議会への参加や、昨年度からは他地域の視察などを行って、他の団体さんとの交流や地域の状況の共有にもつながっています。

名古屋地域では、外国にルーツをもつ方の国籍が多様化しているといえます。言語・文化面などの専門的な支援には限界もありますが、学習相談にみえた際に情報をお知らせできるよう、地域の日本語教室などの情報収集を心がけています。そして来年度からは公立夜間中学の設置が始まります。私たちも地域のさまざまな人や機関とのつながりを意識して、「学びたい」と思いをもつ方に寄り添い丁寧に関わる場づくりを引き続き頑張りたいと思います。

４月から学習支援員として参加いただいている須賀さんに、スタッフとして関わる中での思いを書いていただきました。

＝＝＝＝＝＝

こんにちは。今年度より、学習支援員として参加している須賀です。今回は、私が約半年間、学習支援事業に携わってみて感じたことや考えたことを率直にお伝えしたいと思います。参加してくださった方々が前回解けなかった問題を解けるようになっていく姿を見るのはとても嬉しいですし、やりがいを感じています。そして何よりも伝えたいのが、参加される様々な年齢、バックグラウンドのある方とお話する機会が増えてとても楽しいということです。色々な方のお話を聞けるので自分の知識も増えていくとても楽しい仕事だと思っています。しかし、支援員を始めたばかりのころは不安でいっぱいでした。この活動へのお誘いをいただいた時は、いわゆる「塾講師」として勉強を教えるのとさほど変わりないだろうと思っていました。しかし、実際に初めて勤務した際に、自分より年上の方に教える難しさを痛感しました。手ごたえのなく不甲斐ないままに初回が終わり、船橋さんに「難しいでしょ。適度な距離感が一番大切なんだよ。」と慰められたことを今でも覚えています。私がこの半年間活動を通じて最も学んだことは、「人に寄り添う気持ち」と「適度な距離感」のバランスがいかに大切かということです。世の中には色々な性格の人がいて、それぞれの考えていることも様々だと思います。その人のことを知ろうとしすぎるのではなく、程よい距離感を保ちながら相手が話したいと思えるような雰囲気づくりをすることも、上手なコミュニケーション方法の一つであると深く実感しました。これからも、支援を続けていく中で、参加してくださった方々が学習に集中できる環境や安心して素の自分で居られるような場所となることを目指していきたいです。まだまだ至らない点ばかりですが、この学習支援事業を通して私も大きく成長できるよう精進していきたいと思っています。

名古屋地域 学習支援員　須賀　悠真

私と*「i スタ」の出会い

「i スタ」の活動にお誘い頂き、間もなく一年半になります。私と「i スタ」の出会いは、以前に学習塾で日本の高校に入学を希望する来日したばかりの外国人の少年に国語を教えていた頃、偶然、「i スタ」の存在を知りました。

外国人の少年は母国で中学校を卒業していたので、すぐに日本の高校に入学できるつもりで、既に来日していた両親の元にやって来ました。日本には親戚や同国人のコミュニティがありそこから情報を得ていたようですが、外国人の高校進学については県や市によって対応がまちまちで、少年は現状が理解できず混乱していました。

当時、私は外国人の高校入試に関する知識は全くありませんでした。知人から「i スタ」の活動内容を伺い、少年に母親と一緒に見学に行き、サポートを受けることになりました。

受験に向けて学習指導だけでなく、事務手続き等、全ての面で支援して頂きました。

しかし、半年余りの準備期間では、日本語による面接や国語の読解問題は語彙の理解が及ばず、合格には至りませんでした。少年は再び、両親と離れて高校進学のために母国へ帰国しました。

しばらくして、「i スタ」のスタッフの方から外国人生徒の為に手伝ってほしいと連絡がありました。外国人に日本語を教えるボランティアをしていた事と、「i スタ」の活動内容に共感していましたので、お受けして今日に至っています。

一宮地域 学習支援員　菱川　清子

＊i スタは一宮地域の若者・外国人未来応援事業の愛称

第41回あいち･子ども NPO センター学習会ご案内

ユースワークと子どもの居場所

- 日時 ： 令和7年1月19日(日) 13:30～15:00
- 場所 ： あいち･子ども NPO センター
- 講師 ： 両角 達平 さん （日本福祉大学社会福祉学部 講師）

参加費
会員 学生:500円
一般:1,000 円

【講師プロフィール】
1988 年長野県生まれ。若者の社会参画について、ヨーロッパ（特にスウェーデン）の若者政策、ユースワークの視点から研究。
2012 年よりスウェーデン ストックホルム大学に留学。
ドイツの若者政策の国際 NGO である Youth Policy Labs に勤務。

【参加申し込みについて】
氏名 TEL 所属団体を明記し、E-mail FAX でお申し込みください。
【問い合わせ/申し込み先】
あいち・子ども NPO センター
E-mail aichi-kodomo@mountain.ocn.ne.jp
TEL/FAX ０５２－２５３－６３９８

あいち・子ども NPO センターは、未来を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会を実現するために活動しています。
子どもたちが豊かに育つ社会を構築していくために、私たちは今の社会のありようを改めて問い直し、長期的な展望(ビジョン)を持って、何よりも子どもの命が尊ばれ、子どもの人権・意思が尊重されることを考えなければなりません。子どもにとってやさしく暖かい社会は、すべての人(障害児・者や高齢者なども含め)が安心して人間らしく生きられる社会でもあります。
「あい・こどもネット」に登録して仲間になりませんか!
愛知県内の地域における子育て・子育ち支援活動のネットワーク化をすすめるため、愛知県内の民間
非営利団体による子育て・子育ち支援 NPO 情報サイトです。あいち・子ども NPO センターホームページ（http://aichi-kodomo.sakura.ne.jp）内にあり、登録された愛知県内で活動する子育て・子育ち支援 NPO の団体情報を探すことができます。
新規に登録を希望される団体は、あいち・子ども NPO センターまでご連絡ください。
（TEL&FAX:052-253-6398 E-mail:aichi-kodomo@mountain.ocn.ne.jp）